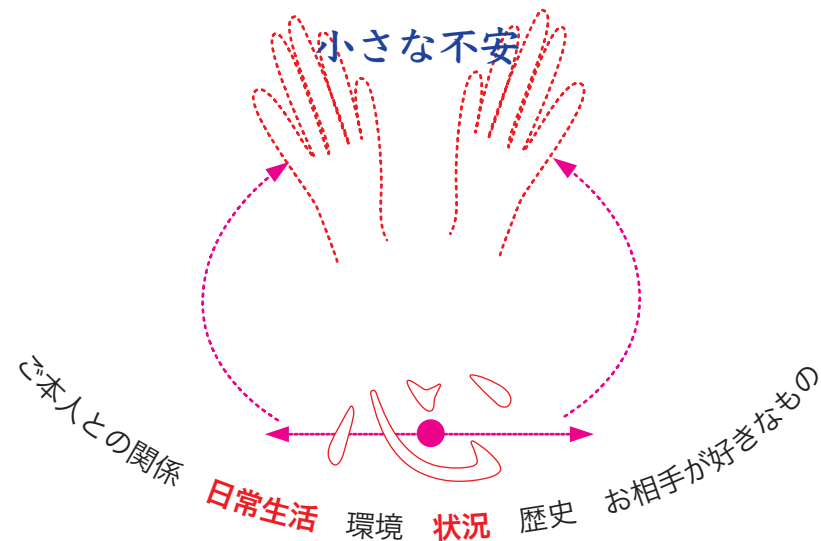


# お相手の《気配》を感じる

認知症状のある人には、不安を感じるタイミングや状況があり人によって、気配を発信することがあります。どのようなときに…という気配を感じて、不安が小さいときに、さり気なく対応することで、ケアも軽減されるかも知れません。

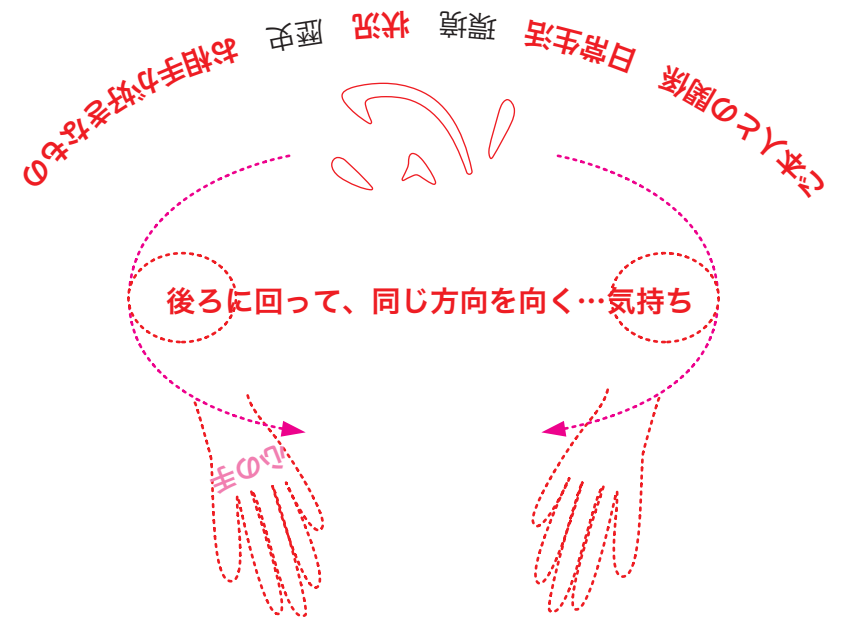


多くの人が、日常の暮らしの中にリズムを持っています。症状のある人も、同じようになりそうです。ただ、いつも同じではない可能性があり、ご本人も気が付かない場合があります。その変化の気配を感じることで小さなケアですむかもしれません。

(3)

# 心の技は知恵のかたまり

認知症状のある人が、同じ話をすることはよく知られています。話した記憶がうすくなるので、知恵というワザについても、記憶がうすい可能性があります。同じワザが提案できると言うことになります。記憶している可能性もありますから新しい技も…



認知症状の人のサポートは、向かい合い…ばかりでなく、同じ立ち位置にいるという感じが安心につながりそうです。実際に横に座ることも「一緒にいる」を感じていただけるかも知れません。想いが伝わるように考えると、知恵は心のワザに生かされます。

(8)